



『いつもと変わらない一日は特別な一日』

校長 井上 潤一郎

4月22日から始まった2度目の臨時休業がようやく解除になりました。5月11日から離島地区は通常どおり授業や部活動ができるようになりました。感染症の予防にはなお十分な対策をとって臨まなければなりません、学校に生徒の皆さんの笑顔と元気な声に戻りとても嬉しく思います。職員室の先生方にもほりあいが生まれて、みんなとのやりとりの声も何だか生き生きしています。やっぱり生徒がいてこそこの学校ですね。ふだんどおりの学校生活を送れる喜びをかみしめて勉強や部活動がんばってほしいと思います。

しかしながら14日に発表された高総体の中止は本当に残念でした。全国大会や福岡、佐賀といった近県の県大会が次々と中止になる中、半ば覚悟はしていたもののひょっとしたらという一縷の望みを私もつないでいました。正式に中止になるとやはりショックです。まして、これまで高総体を目指して一生懸命がんばってきた3年生をはじめとする運動部の選手諸君の落胆はどれほどだろうと案じられます。

朝日新聞に毎日掲載される鷲田清一さんによる「折々の言葉」の中にこんな言葉を見つけました。『いつもと変わらない1日は特別な一日』。これは、NHK連続テレビ小説「スカーレット」の中で、主人公喜美子の息子・武志が発した言葉だそうです。白血病の診断を受け、余命を知った武志が、もがきながら作陶に打ち込む。その中で、あたりまえの一日も周囲の人たちの厚い思いやりに支えられた一つの達成だと感じて記したのがこの言葉です。

あたりまえだと思った日常が失われたところで気づく大切なことが、私たちにもきっとあると思います。友達とは会えないけれど、一人になって考える中で、本当に会いたい人は誰なのか。自分が本当に必要としているものは何か。そして一日一日のかけがえのなさ。そういったことに気づく機会になってくれればと思います。

4月の入学式、始業式は満開の桜の中で迎えることができましたが、5月初旬に学校を彩った色とりどりのつつじは、臨時休校のためあまり生徒の皆さんの目に触れることがありませんでした。しかし、梅雨を過ぎれば青葉輝く初夏の太陽が皆さんに降り注ぎます。感染症には十分気をつけながら、学業に部活動に若い力をぶつけていきましょう。



柿の浜

6月の行事予定

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
6日	土	高総体(～6/8)中止	19日	金	考査時間割発表、帯タイム開始、小中高合同海浜清掃(午後)、漢字検定(放課後)
10日	水	生徒会役員選挙候補者選出 3年放課後補習開始	20日	土	3年県一斉・SPI・公務員模試(海浜清掃予備日)
11日	木	選択科目説明会(1,2年) 進路説明会(3年)	22日	月	アルバイト説明会
12日	金	商品開発デー	23日	火	第1学期末考査(～7月1日)
13日	土	3年進研マーク模試(～14日)	26日	金	食物検定3級筆記試験
18日	木	生徒会役員選挙立会演説・投票			

生徒総会

5月14日(木)に生徒総会を行いました。今回は新型コロナウイルス感染症対策のため内容を変更し、生徒会費の決算報告と予算承認を行いました。短い時間でしたが、質疑応答の際には生徒から質問や意見が出され、生徒総会に主体的に参加する姿が見られました。



商品開発デー

5月15日(金)に商品開発部は「Tantan班」と「担い手公社班」に分かれて活動を行いました。「Tantan班」ではアイシングクッキーづくりに挑戦しました。特に文字や絵を描くのに苦戦していましたが、最後は作ったクッキーを試食し、達成感を味わうことができました。「担い手公社班」では産業祭りで販売する商品について話し合いました。生徒のユニークなアイデアを担い手公社の方がうまくまとめてくださり、次に繋がる充実した活動となりました。



長崎県教育委員会教育長メッセージ

臨時休校が明けた5月11日、長崎県教育委員会教育長から県内の高校生へ向けてメッセージがおくられました。以下に全文を記載いたします。

「今こそ、想像力をもって」

新型コロナウイルスとの闘いの中、世界中の多くの人々が不安な生活を送っています。それでも自然界では、例年と何も変わらず桜の花は咲き誇り、そして今、新緑眩しい季節へと移ろっています。ある都市に端を発した新型コロナウイルスは、あっという間に世界の脅威となりました。ウイルスの感染スピードに、私たちはあらためて人やモノが自由に行き交うグローバル社会を生きていることを再認識させられました。そして、これから感染症をはじめ、地球の温暖化やエネルギー問題など、答えのない地球規模の課題にみんなで見向き合っていかなければなりません。

さて、約20日ぶりに学校を再開しました。不要不急の外出を自粛し、体育部・文化部ともに活動さえもできない日々の中、皆さんは何を考え、どのような時間を過ごしていたでしょうか。長崎県では3月に続き、新年度が始まった矢先に再び臨時休校とし、高校生の皆さんにとってかけがえのない学校生活を奪ってしまったことを大変申し訳なく思っています。授業を受けたり、行事を楽しんだり、仲間と語らったり、部活動に励んだり、そのような当たり前の日常が一変し、大切な青春の時間が失われていく皆さんの気持ちを考えると、臨時休校の決断には胸が痛みました。

また、全国高校総合体育大会（インターハイ）の中止が発表され、県の高校総体や各種コンクール等の開催も現時点では見通しが立っていません。部活動の集大成と位置づけてこれまで練習に励んできた皆さんにとっては、目前に迫った大きな目標が揺らいでいることに不安な思いをしていることと思います。しかし、これまで部活動で体や心を鍛えてきたこと、仲間と友情を育んだこと、共に泣いたり笑ったりしたこれまでの思い出がなくなるわけではありません。今は辛い思いで一杯でしょうが、部活動をとおして学んできた多くの経験は皆さんの財産であり、これからの人生を支えてくれるものと確信しています。そして、皆さんの夢はこれからも続いていきます。どうか顔を上げて前を向いてください。3年生の皆さんは、この悔しさを心のばねにして就職や進学という新たな目標に向かってほしい、そう切に願っています。

いまだ臨時休校を継続している都道府県がある中、長崎県では教育活動を再開しました。皆さんの命と健康を守ることが最優先ですが、一方でかけがえのない高校時代の学びも守らなくてはなりません。感染症の拡大の終息が見えない中とはいえ、3年生にとっては就職試験や専門学校、また大学の入学試験が数ヵ月後に迫っているのも厳然たる事実です。どうか自分の未来へ向かって学びを続けてください。

話は変わりますが、今、私たちに必要なことは「想像力」を持つことだと思います。

まず、ウイルスへの感染を決して人事ではなく、自分事としてとらえる「想像力」です。相手は目に見えないウイルスです。「自分だけは大丈夫」ということは決してありません。引き続き徹底した予防に努めてください。予防は自分自身のためだけでなく、大切な家族や仲間、また周囲の方々の命や健康を守るためでもあります。想像してみてください。皆さんが乗り合わせたバスや電車の中には、持病のある方や、ご家族にご高齢の方や妊婦さんなどがいらっしゃるかもしれないのです。

こまめな手洗いや換気、咳エチケット、マスクの着用、公共交通機関での会話は極力控えるなど、日常的にできる予防に努めてください。

二つ目は、感染した方への「想像力」です。感染した方々は治療薬もない中で大変不安な時間を過ごされていることと思います。一方で、言われなき誹謗や中傷を受けたり、差別や偏見の目で見られたり、人知れず辛い思いをされている方々がいらっしゃいます。SNSなどでは真偽が定かではない情報も飛び交っています。このような難局において大切なこと、それは他者への思い遣りや優しさではないでしょうか。

最後は、社会を支えてくださる方々への「想像力」です。企業によっては在宅勤務やテレワークで会社に出勤せずに仕事をされている方々もいらっしゃる一方で、日夜、感染の不安を抱えながら私たちの生活を支えてくださっている方々も沢山いらっしゃいます。医療の最前線に立つ医師や看護師さん、バスや電車などの運転手さん、私たちの消費生活を支えているスーパーなどの店員さん、また保育園や学校の先生など、私たちの社会は多くの人々が支え合って成り立っていること、またあらゆる仕事が尊く、かけがえのないものであることに改めて気づかされます。

私たちは今、出口の見えないトンネルの中にいるようなものです。これまで誰も経験をしたことがない難局に立ち向かっています。高校生の皆さんも学習や行事、部活動に思う存分打ち込めない不安と苦しみの中にいるでしょうし、大人たちも先が見通せない苦悩や失意の中にいる方々が大量にいらっしゃいます。しかし、この事態が収束し、未知のウイルスとの闘いが終わる日が必ず来ます。何の不安もなく学校に登校できる日が必ず来ます。マスクをはずして仲間と語り合ったり、笑い合ったりできる日が必ず来ます。思い切り部活動に打ち込める日が必ず来ます。仲間と共にこのピンチをチャンスに変える気概をもって、前を向き一步一步進んで行ってください。この困難を乗り越えた先には必ず明るい未来が開けている、そう信じています。

令和2年5月11日

長崎県教育委員会 教育長 池松 誠二

手作りマスクの寄付～おちか憩いの家の皆様より～

先日、おちか憩いの家の皆様より手作りマスク80枚のご寄付をいただきました。早速生徒達に配付すると、喜びの声と共に笑顔がみられました。いただいたマスクは大切に使用させていただきます。おちか憩いの家の皆様、誠にありがとうございました。



編集後記 松のひとりごと・・・

臨時休校が明け、部活動がやっと再開という日に県高総体の中止が決定しました。吹奏楽コンクールも中止が決まり、これまで懸命に努力してきた生徒たちの気持ちを考えると心が痛みますが、まだまだこれまで通りの日常生活を送ることが難しいのも事実です。まずは毎日授業や部活動が行えることに感謝し、感染症対策を徹底していきたいと思います。